

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173000348		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・上福岡		
所在地	埼玉県ふじみ野市上福岡5-5-4		
自己評価作成日	令和3年10月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokennsaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケアシステムズ		
所在地	東京都千代田区麴町1-5-4-712		
訪問調査日	令和3年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染予防対策として、今年度も10月の時点で外部からのボランティア受け入れを自粛しています。コロナ禍以前は、天気の良い日は散歩に出たり、公民館内の図書館を利用したり、買い物に出かけたりしていましたがそれも自粛中です。ご利用者様の心身の健康維持のため、本部の健康増進サービス課が中心となり、「ノーアエクササイズ」「いきいきリズム体操」「ALSOKあんしんヨガ」「タオル体操」など多彩なプログラムを取り入れております。8月にはリモートで「盆踊り大会」が開催されました。また、10月にはリモート運動会が開催されます。お楽しみ屋食会や、誕生日会で“うなぎ”や“握り寿司”等を提供したり、お彼岸には“おはぎ”を作ったり、「食」を楽しむイベントも開催しています。イベントや日々の様子は、ブログを活用し、ご家族様や外部にも情報提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

以前は日常的に外出支援を行っていたが、コロナ禍では控えている現状となっている。緊急事態宣言解除を目的に外出支援再開の検討を予定している。外出支援が行えない分、通常のレクリエーション活動の種類を増やして対応をしている。また、家族と利用者との面会が難しいことから、施設での生活が分かるように多くの写真をSNSやお便りに載せて家族へ伝えている。イベント時の写真だけでなく、通常のレクリエーション活動時での写真や何気ない生活の一部分の写真なども掲載することで、施設での生活がより分かりやすいものとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えて作った理念を基に、毎月開催される職員会議で理念を復唱し、共通意識を持ちながら実践しています。「笑顔と思いやり」「寄り添い共に支えあう介護」	管理者は、各会議の中で理念を伝えており、新人職員にはベテラン職員が日々のケアを通して伝え、指導する立場の職員も振り返りをしながら、理念の共有に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、毎年夏祭りなど地域のイベントに参加しています。(今年度も地域のイベントは中止となり、施設としても感染予防対策として地域交流を自粛しています)	ハンドマッサージ、昔遊び、歌、お散歩ボランティアなどが定期的に来園したり、町会の防災訓練に利用者や職員が参加するなど地域とつながりながら生活できるように取り組んでいたが、コロナ禍のため中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も新型コロナウイルス感染予防対策を重視し、地域活動を自粛していますが、職員会議内で認知症への支援やケアのあり方を事例をもとに学ぶ機会を設けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も新型コロナウイルス感染予防対策として運営推進会議は開催していませんが、実績は書面にてご家族様に郵送し、関係機関にも提出しています。	コロナ禍のため役所から中止の連絡があり現在は行われていないが、町会や地域包括、社協、民生委員には、事業所の現状報告とともに、提案や意見をもらうようにしており、運営推進委員会の再開にむけて準備している。	
5	(4)	○市町村との連携 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月月初に入退居・待機者・ご利用者様の要介護度を書面にて報告しています。運営推進会議録や生活保護の方の生活状況を市役所の窓口を持参し、顔の見える関係作りに努めています。	運営推進会議録や事業所の現状報告をし、意見をもらう為定期的に担当課を訪問している。事業所連絡会にも積極的に参加し、社協とはコロナ収束後のボランティア受け入れについてやり取りし、協力体制を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体拘束委員会、年2回研修を行い、身体拘束について学ぶ機会を設けています。身体拘束禁止のための指針も整備し、全員で定期的に内容の確認をしています。	本部からの研修題材に沿って定期的に勉強会を行い、テストやグレーゾーンの話なども取り入れ理解が深まるように努めている。不参加の職員には議事録を確認してもらい、全体への周知に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回高齢者虐待防止委員会、年1回研修を行い、事例を基に勉強会を開催し、定期的に“施設従事者のための自己チェックリスト”を活用し、虐待防止への意識を高めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、市役所の事業所連絡会の中で学ぶ機会がありました。成年後見人の付いたご利用者様の受け入れ実績もあり、その際に関係者と話し合い、支援に関する理解を深めることができました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には丁寧に説明し、分からない事を分からないままにしないよう十分配慮したうえでご理解・ご納得を頂いています。契約時以降も随時、ご質問等を受け付けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は家族会も地域運営推進会議も未開催ですが、ご家族様及び会議構成員の方々には、書面によりご要望やご提案を伺うことにより、運営に反映させられる工夫をしています。	コロナ禍の為、家族会を中止しているが、電話でのやり取りは以前より活発になっており、意見等は記録し各会議で検討のうえ、運営に反映できるようにしている。利用者の写真や日々の食事レシピを作成して家族に毎月送り、好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で自由に意見交換を行い、話し合いの場を設けています。その意見や提案をもとに、より良い運営に繋がるよう反映しています。	職員間では質問ノートを活用し、意見の把握に取り組んでおり、会議での意見交換は議事録で確認している。定期的な個人面談だけでなく、日常的にも提案を受け、多くの意見を取り入れ事業所の運営に反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し、理解したうえで役割分担し、負担の無い範囲でやりがいと向上心を持ち働けるよう努めています。努力が励みになるような工夫もしています。(社員を賞賛するためのGSTカード配布など)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自社の人財開発課主催の研修が充実しています。健康増進サービス課による体操トレーナー養成研修や、シニアセラピーのセラピスト養成講座もあります。(外部研修は自粛中です)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症予防対策として交流は自粛していますが、健康増進プログラムの一環で、リモートで他事業所との交流を図っています。プログラムも交流の要素として活用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントで出来る限りご本人様の不安や困りごとを探り、要望を伺いつつ早くホームの生活に馴染めるよう信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時に質問や要望を伺い対応しています。それ以外にも話を聞く機会を設け、ご家族様の不安や困りごとに対応できるよう早い段階から信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状況を見極め、何を必要としているか、様々な支援を視野に入れ、幅広いサービスの提供に努めています。必要に応じて地域包括支援センターや在宅支援サービスを紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの理念「寄り添い共に支え合う介護」を念頭に、職員のみではなく、ご利用者様同士もお互いに支え合い助け合って日々生活を共にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの影響で面会が制限される中、ご家族様との絆が途切れないよう電話取り次ぎや、写真付きの便りを活用するなど、ご本人様とご家族様を支えていく関係作りをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防対策として活動を自粛している中で、なかなか難しい状況ではありますが、ブログの活用で外部に情報を発信することで関係が途切れないよう支援しています。	コロナ禍では通常の外出支援を自粛しているため、利用者との会話から馴染みの場所を写真で見せるなど、関係継続の支援にむけて取組みを行なっている。手紙のやり取りは継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の相性や個性に配慮した席の配置や見直しをしたり、集団で参加できる様々なレクを工夫し、孤立せず支え合える関係を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用(契約)が終了した後に、ご家族様から連絡を受け、ご自宅に伺いお話を伺いました。必要に応じ可能な範囲で関係が途切れないよう支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	新型コロナウイルスの影響で、思いや希望を把握しても希望に添った暮らしの支援が行えない事が多い中、妥協案を模索し、何とか形にできるようご本人様本位に検討しています。	入居時やケアプラン見直し時には利用者や家族の意向の聞き取りを行っている。主に利用者には日々の生活での言動や様子から意向を汲み取ったり、家族には「ご意向記入表」や電話などで意向を確認して支援に反映させるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様との会話の中から生活歴や生活習慣を把握し、これまでどのようなサービスを利用し、生活環境がどのように変わったのか経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で心身の状態や有する力等の現状の把握に努め、変化を見逃さず有する力が無理なく発揮できるよう支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアのあり方について、月毎の職員会議でカンファレンスを行っています。ご本人様やご家族様、医療関係者と意見やアイデアを出し合い、現状に即したケアプランを作成しています。	毎月のケアカンファレンスや3か月毎のモニタリング、6か月毎のサービス担当者会議を経てケアプランの見直しを行っている。また、利用者の心身状況の変化などがあった場合には都度での見直しを行っている。	利用者のサービス担当者会議への出席が出来るような工夫を検討されたい。また、コロナ終息や感染状況の低下などのタイミングを見計らって家族の出席を促すことが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき、ケアの実践・結果はご利用者様個々の生活記録に記入し、情報共有しています。その情報を基にケアの実践へ反映したりケアプランの見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご本人様の希望やニーズが生じて、新型コロナウイルスの影響でなかなかサービスにつなげる事が出来ませんが、柔軟な対応や支援が出来るよう対応策を模索しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で、今年度も地域資源との協働が図れていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科共に月に2回の訪問診療時に、適切な医療が受けられるよう、より良い関係作りに努めています。居宅療養管理指導書をご家族様に送付し、医療面での情報共有を行っています。	月2回の内科医、歯科医の往診と毎週の訪問看護、歯科衛生士の訪問にて、医療連携連絡表を活用し、連携しながら利用者の健康管理に努めている。希望があれば担当医の変更は可能だが、現在では殆どの利用者の担当医は訪問する内科医となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	暮らしの中で得た気づきや情報は、訪問看護記録に残し情報共有しています。訪問看護師から医療機関へ情報を伝達し、医師から指示を仰ぎ適切な受診に繋がられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時には、地域医療連携室の相談員と連携し、早期に退院できるよう情報交換しています。退院時には診療情報提供所やADL表の提供を基に受け入れ態勢を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に関しては、ご本人様やご家族様と話し合いを行い、書面で意向の確認をしています。その際に事業所でできること、できない事を説明し、往診医や医療連携訪問看護師にも内容を伝達しています。	入居時の契約の際には重要事項説明書を用いて利用者・家族に重度化や終末期の説明を行っている。また、利用者の心身状況の変化がみられた際にも内科医や訪問看護と連携して利用者・家族への説明を行っている。	重度化や終末期による医療処置が生じた場合、施設での対応が難しくなる具体的な内容はホームページに記載されているが、重要事項説明書には具体的な内容がないため、書面での配布などが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や急変時に備え、定期的に初期対応訓練を行っています。訪問看護師や往診医からもアドバイスを受け、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	多種多様な災害に備えマニュアルを整備しています。夜間を想定した避難訓練も実施し、消防署職員立会の総合訓練時には地域住民ご参加いただき有事の際の協力体制を構築しています。	毎年、春に夜間想定避難訓練、秋に消防署立会の避難訓練を実施し、会議録に詳細を記載している。その様子を写真にし、施設内に掲示したり、SNSに掲載をしている。以前は近隣住民や自治会の避難訓練参加はあったが、コロナ禍では控えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や人権を尊重し、プライバシーを損ねないよう声掛けや言葉掛けに配慮しています。また、居室の小窓には工夫を凝らし、外から見えない配慮をしています。	入居前の生活を重んじて、利用者一人ひとりの生活歴や性格などの詳細な情報をアセスメントし、日々の支援に反映させている。また、接遇マニュアル、認知症マニュアルを整備し、職員間での共有化を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で常に自己決定ができるよう働きかけをしています。自己決定が難しくなっているご利用者様には、二択三択できるように声掛けをし、思いや希望が表せるよう工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、レクリエーション、家事参加、全てにおいてご利用者様個々のペースを大切にし、どのように過ごしたいか希望に添い、無理強いせずその人らしい暮らしが送れるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を自分で選んだり、訪問理美容時に希望の髪形を美容師に伝えられるよう支援しています。また、ご利用者様の希望に添いネイルを楽しむなど、おしゃれが楽しめるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けはご利用者様と一緒にしています。食器拭きなどもご利用者様のペースに合わせて一緒に行っています。月に1回「お楽しみ昼食会」を開催し、“食”を楽しんでいます。	毎月、季節に合わせたイベント食や利用者と一緒に調理する食事レクリエーションを実施をしている。普段の食事でも利用者と一緒に盛り付けを行ったり、食器洗いや食器拭きなどを行うことにより、食に対する意欲の向上に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を個別に記録し、食が細くなったご利用者様には医療機関と連携し、栄養補助飲料を提供しています。ミキサー食や刻み食など一人ひとりの状態に合わせ支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医・歯科衛生士の指示や指導を基に毎食後、個別に細かい口腔ケアを行っています。必要に応じて歯間ブラシや舌ブラシ、口腔ウエットでのケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握したうえでトイレ使用の声掛けや誘導を行っています。立位保持が可能なご利用者様は、トイレでの排泄ができるよう支援しています。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄リズムに合わせた声掛けや誘導を行っている。それによってリハビリパンツから布パンツに変更した利用者もいる。また、移乗困難な利用者でも2人介助により、日中はトイレでの排泄を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診医や医療連携訪問看護師と連携し、下剤の調整を行っています。便秘の解消のために腸の働きを促すよう腹部のマッサージをしたり、レクの一環としての体操を毎日行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	「入りたい」「入りたくない」など個々の希望に添い、職員の都合ではなくご利用者様の希望に添い入浴プランを立てています。入浴剤を活用し、湯の色や香りを楽しめるよう支援しています。	入浴実施表を活用して3日に1回を基本とした入浴支援を行っている。拒否などがある場合は無理をせず、利用者のリズムに合う日時に変更している。入浴を楽しんでもらうため、入浴剤を選んでもらい使用するなどの工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活習慣を把握し、一人ひとりの生活のリズムを大切にしながら安心して快適な睡眠が取れるよう支援しています。明るさや室温にも個別対応し、安眠できるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や訪問看護師、薬剤師と連携し、内服薬や塗布薬の用法や副作用の把握に努め、服薬時は必ず職員2名体制で本人確認をし、飲み込みまでの確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様一人ひとりの趣味嗜好を把握し、その能力に合った楽しみを見つけ、張り合いや喜び、生きがいを感じられるよう日々の暮らしを支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの感染予防対策として、今年度も散歩や外出は自粛しています。	コロナ以前では、毎日のように最寄り駅のスーパーまでの買物外出を行っていた。また、外出イベントとして外食や地域の盆踊り大会、七夕祭りの参加なども行っていたが、コロナ禍においては、全般的に中止となっている。	緊急事態宣言解除を目途に外出再開の検討をする予定となっている。利用者・家族の意向としては外出の希望があるためコロナ終息や感染状況に応じて再開することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出を自粛していますが、日常生活の中の些細な会話の中でもお金の大切さを話しています。ご利用者様もお金の大切さは理解されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルスの影響で、普段よりも頻りに電話の取り次ぎやハガキ・手紙のやり取りをしています。また、それができるよう支援もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に作品を掲示したり、季節感の出る装飾品を飾っています。トイレにも小物を置くなど居心地の良い空間作りに努め、廊下の灯りは白色ではなく、夜間も落ち着いたよう暖色を取り入れています。	共有スペースのフロアには、その季節に合わせた飾りやイベント時の飾りを利用者と一緒に制作して飾っている。また、常に換気は行い、オゾン発生空気清浄機や加湿器の設置をしている。モップ掛けなどが行える利用者は一緒に掃除を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ブックスタンド横に椅子を配置し、読書を楽しめるよう工夫しています。食堂にソファを設置し、気の合うご利用者様同士でおしゃべりを楽しむ空間が設けられています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた棚や姿見、タンスやテレビなどを持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう工夫しています。ご本人様やご家族様から相談され、先祖の仏壇を持ち込まれた例もあります。	使い慣れたタンス、ハンガーラック、仏壇などを持参してもらっている。また、施設でのレクリエーション活動やイベントの写真、制作したものを飾ったり、好きなタレントの写真なども貼って、利用者が居心地良く過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアへの大きな貼り紙、居室入口のネームプレートの活用など、生活の中で「できること」「わかること」を生かし、安全な暮らしが送れるよう様々な場面で工夫を凝らしています。		

目標達成計画

作成日：令和 3 年 12月 20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26(10)	コロナウイルス感染予防対策として面会が中止されており、また、家族会の開催も中止しているため必要な関係者との話し合いが出来ていない。	利用者を含め、関係者を交えた担当者会議を設ける。	現時点では、具体的な取り組みの実施は難しいが、コロナウイルス感染の状況を把握したうえで、会社の方針を基に段階的に実施していく。	12ヶ月
2	33(12)	重度化や終末期による医療措置が生じた場合の施設対応について、具体的な内容の記載が重要事項説明書にない。	重要事項説明書への記載、若しくは書面での配布を行う。	現状においての問題点として、会社に提案していく。	12ヶ月
3	49(18)	コロナウイルス感染予防対策として、散歩や外出を自粛している。利用者や家族の意向に添えていない。	緊急事態宣言解除を目途に、日常的な買い物支援や、散歩などの外出の支援を行う。	緊急事態宣言解除を目途に、会社の方針に従いつつ感染状況を踏まえたうえで外出の支援を再開する。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。